「地方たばこ税の財政貢献を地域社会に強くアピールする新しい標語」

最優秀作品などを決定・全協特別賞も

応募者数415名、寄せられた標語は1245フレーズ!!――本紙が、全協の協賛を得て本年の2月より実施しておりました「地方たばこ税の財政貢献を地域社会に強くアピールする新しい標語」の募集は、4月末日をもって締め切り、厳選なる審査の結果、今月号で最優秀作品、優秀作品などを発表いたします。

応募者数415名・標語は1245フレーズ

たばこ販売業界には、「たばこは地元で買いましょう！」「たばこ税は地元の暮らしに大きく役立っています」など、長年にわたり愛煙家のみなさん及び地域社会や地方自治体に訴えてきた、慣れ親しまれた標語・キャッチコピーがあります。

今回の標語募集は、愛煙家のみなさんのみならず、地域社会全体に地方たばこ税の財政貢献が広く深く認知される、令和新時代にふさわしい、心に響く〝地方たばこ税の貢献〟を表現する標語・キャッチコピーを、広くみなさんから寄せていただき、最優秀、優秀作品などを決定・紹介し、それらの作品をお店などで使っていただきたいとの思いから実施したものです。

募集の結果、各地から、415名の応募者があり、標語も1245フレーズになりました。全協・たばこ関係者の代表による合同の選考委員会では、第一次選考で248フレーズにまで絞り、更に第二次選考で31フレーズを選び、最終選考では、31フレーズの中から、最優秀作品1点、優秀作品3点、全協特別賞5点、佳作3点を決定しました（**別掲参照**）。

店頭掲出等でアピールを!!標語作成にチャレンジ!!

今回紹介した12点の標語は、愛煙家のみなさんをはじめ、地域社会や地方自治体のみなさんなどに、〝地方たばこ税の貢献〟を幅広く知っていただくことを目的としています。

ぜひ、たばこ販売店のみなさまには、店頭などに貼付して積極的にアピールしていただきたいと思います。

なお、本紙では、受賞された作品について、店頭掲出用POPとして使えるようにデザイン化したものを、来月の紙面で特集し、紹介する予定です。また、今回の受賞作品を参考にしながら、ご自身で標語作成に、ぜひ、チャレンジしてみて下さい。

「地方たばこ税の財政貢献を地域社会に強くアピールする標語」の最終選考の結果、選ばれた最優秀賞、優秀賞、全協特別賞、佳作の作品は次のとおりです（順不同・敬称略）。

★最優秀賞

●**たばこ税　禁煙よりも分煙で　地域潤す　高額納税**
（東京都・木村　美智子）

★優秀賞

●**我が町の　夜の街路灯（あかり）は　たばこ税**
（北海道・升　武志さん）

●**地方たばこ税　1本当たり約7円　積もり積もって1兆円**
（神奈川県・藤本　由子）

●**教育や　福祉を支える　たばこ税**
（山口県・石川　貴美枝）

■佳作

●**ふるさとの　強い味方は　たばこ税**
（福島県・野﨑　利子）

●**たばこ税　貴重な財源　地元の宝**
（富山県・神本　俊子）

●**地方自治　大きく支える　たばこ税**
（新潟県・栗林　鎌一）

■全協特別賞・全協選考委員からのコメント（順不同・敬称略）

上記の賞には選ばれませんでしたが、全協選考委員会の心を打った標語を『全協特別賞』としてご紹介します。

●**たばこ税　紫煙消えても　税残り**
（愛知県・水野　勝信）

■「嗜好品かつ担税物品であるたばこの特徴を超短文で表現。たばこ税を大事に使ってくれれば、愛煙家もさらに至福の一服を楽しめますよね！」
（副会長・加藤和人＝写真）

●**一服は　納税ですと　客に笑み**
（大阪府・寺脇　純一）

■「まさに売り手視点がいいですね。微笑む看板娘（おばあちゃん？笑）が目に浮かびました！」
（総務部長・武田基樹＝写真㊨）

■「たばこ販売店としての誇りとお客様への優しさをひしひしと感じました！」
（総務部次長・藤内崇史＝写真㊧）

●**禁煙！禁煙！　たばこ税減れば　騒ぐあなたが税負担**
（大阪府・寺脇　純一）

■「たばこ税の地域貢献は継続してアピールしていきたいです。」
（経理部長・松宮昭夫）

■「実態を上手く反映した、直球のような表現が胸に刺さりました！」
（総務部副部長・吉野泰光＝写真）

●**市長さん　内心嬉しい　たばこ税**
（長崎県・神田　恵博）

■「地方たばこ税は一般財源として自由に使えるので、市長さんは嬉しく思っているはずです」
（総務部次長・久保耀＝写真）

●**愛煙家　今日も明日も　「ふるさと納税」**
（熊本県・平山　誠二）

■「地方たばこ税は確かにふるさと納税！このふるさと納税にも返礼品があったらなあ〜」
（総務部・大沢一恵）

お便りコーナー

●ある日、2階の引き出しを整理していたら、銀キセルが出てきました。江戸川柳の記事に出ていたようなキセルでした。亡き父が、美味しそうに一服していたのを思い出しました。
（北海道・升　武志さん）

●店番をしながら、ふと、「愛煙家のみなさんが、どこでも、いつでも、気兼ねなく喫煙できるようになったら、世の中がもっと明るく、豊かに、楽しくなることだろう。そんな時代が来ないかな！いや、昔はそうだったな」など思いました。常連さんが来たら、そんなことを話題にしてみよう。
（山形県・芦原　良子さん）

●組合費を集める業務を行っていますが、昔は10軒ほどだったのが、今は4軒に減ってしまいました。コンビニなどの台頭で売行きも減り、自販機を頼りにして商いを続けています。今後、自販機は期待して良いのでしょうか。
（福島県・斎藤　富子さん）

●新型コロナが猛威を振るっていますが、こういう時こそ、リーダーの手腕が問われます。「先手必勝」「備えあれば憂いなし」「正直は最善の策」などの言葉を実行し、「終わり良ければ、すべて良し」となるようなリーダーが、今の日本には……。
（埼玉県・吉田　正義さん）

●たばこを売って50数年、今の売上げは昔の10分の1です。時々いらっしゃる常連さんと、古くなった自販機が頼りです。お客様と自販機に感謝しながら、商いを続けています。
（千葉県・文辺　夏子さん）

●たばこ販売を始めて30数年になります。昔はよく来ていたメーカーさんの営業員の方も、最近は来店しなくなり、メーカーさんが提供してくれていた「お客様の動向」や「売れ筋商品」などの情報が入らなくなりました。唯一の〝たばこ情報紙〟である全国たばこ新聞の記事を、新商品の仕入れや品揃え、お客様への情報提供などに参考にしています。
（東京都・馬場　盛一さん）

●4月号に掲載された「思い出の小唄――全国のたばこ屋さん元気を出しましょう」で紹介されていた「たばこ小唄」を、誰もいないときに声を張り上げて歌っています。

「風邪をひかずに転ばずに　笑い忘れずたばこ屋さん　頭と足腰鍛えつつ　たばこ盛り上げ　頑張ろう」

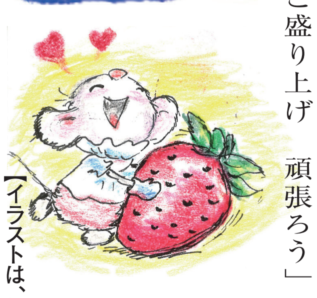
と歌いながら、最後の一節「ボケとる暇など　ありゃしない」を、より一層声を張り上げて歌っています。こんな時ですから、これでストレス発散。
（富山県・神本　俊子さん）

●コロナウイルス感染拡大防止になればと、スポンジに水を含ませ、適当な容器に入れ、「指先を湿らせるのにお使いください」と書いて店頭に置いています。以前、指先を舌でぺろりと舐めて、お札を出されたお客様がいらっしゃったからです。お客様が使われたスポンジを洗う手間は増えましたが、指先を舐めることの危険性を知っていただければいいと思っています。
（兵庫県・田中　千津子さん）

●私は、お客様が銘柄をすぐに選んでいただけるように、たばこの開封口を上にして並べています。正面を向かせて並べると、例の〝注意文言〟がやたらと目立つからです。多くの年配のお客様から、「開封口に記されている数字で自分の銘柄を選ぶが、数字が小さくて見づらい。大きくならないかね」と言われました。開封口も〝たばこ〟の顔です。何とかならないでしょうか。
（長崎県・鈴木　百合子さん）

「おうち時間を楽しんでるにゃ〜」

これからも新聞
読みたいので
かんばる
ありがとう
57組



【イラストは、新潟県の星ミユキさんの作品です】